

2015.9

在コスタリカ日本国大使館 経済班

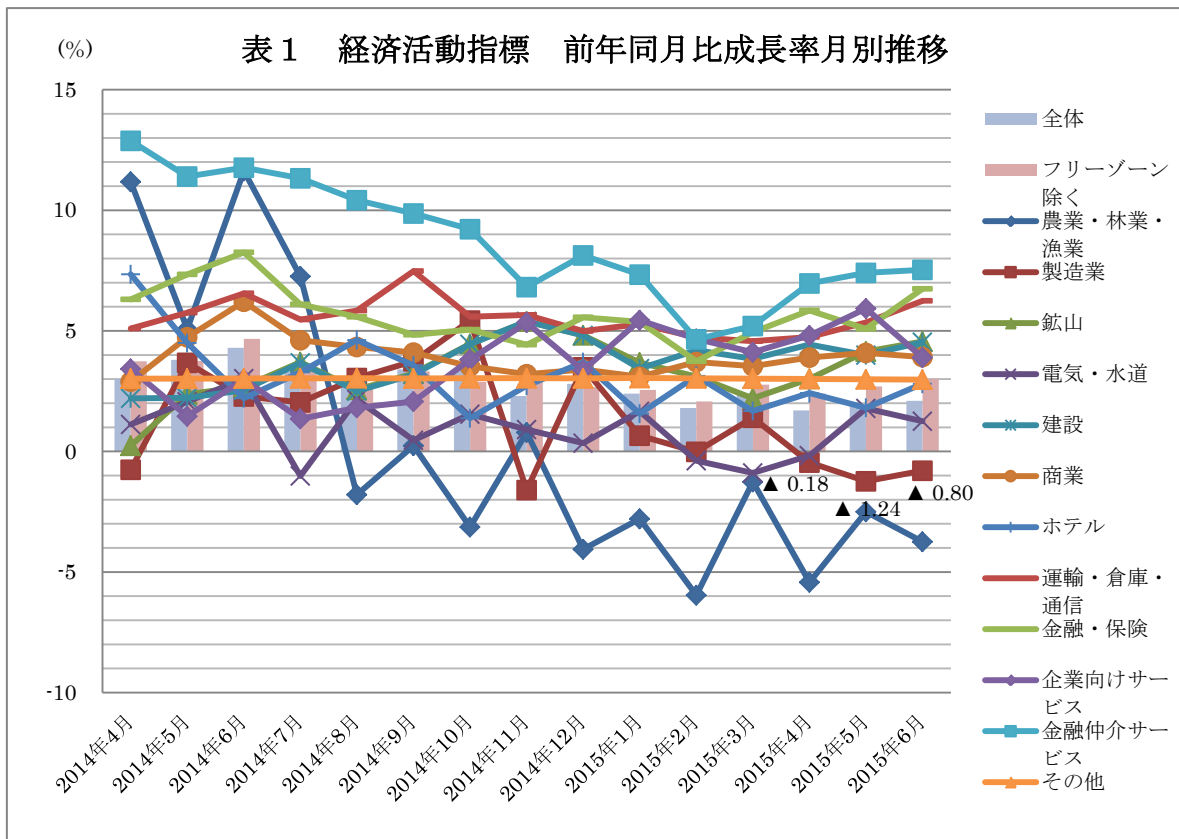
※出典：コスタリカ中央銀行、財務省、貿易省(COMEX)及び貿易振興機構(PROCOMER)(4-6 月分数値)。主な出来事については当地新聞記事¹⁾による。

1 経済活動指標

●国内主要産業である製造業は 4-6 月に、3 ヶ月連続で前年同期からのマイナス成長(4 月-0.46%、5 月-1.24%、6 月-0.8%)を記録し、昨年末のインテル社による国内製造部門の廃止の影響が顕在化した形となった。

●同様に主要産業である農林漁業に関しても、4 月以降も引き続き 3 ヶ月連続でマイナス 2%を下回る前年からの成長率を記録した。特に 4 月は前年比マイナス 5.42%と大幅な減少となった。異常気象が、主要農産品であるバナナやパイナップルの生産に影響を与えていることが主な要因とされている。

●従来の主要産業が低迷するなか、近年成長が著しいサービス業全般や、金融・保険業が一定の水準を維持したこと、また、カリブ海側のモイン港における新コンテナターミナルの建設が開始されたことなどにより、建設業が前年から 2-3 ポイント近い成長を見せていることで、経済活動全体の成長率の低下が一定程度抑えられている。



¹ ラ・ナシオン紙、ディアリオ・エクストラ紙、ラ・レプブリカ紙、エル・フィナンシエロ紙

2 貿易

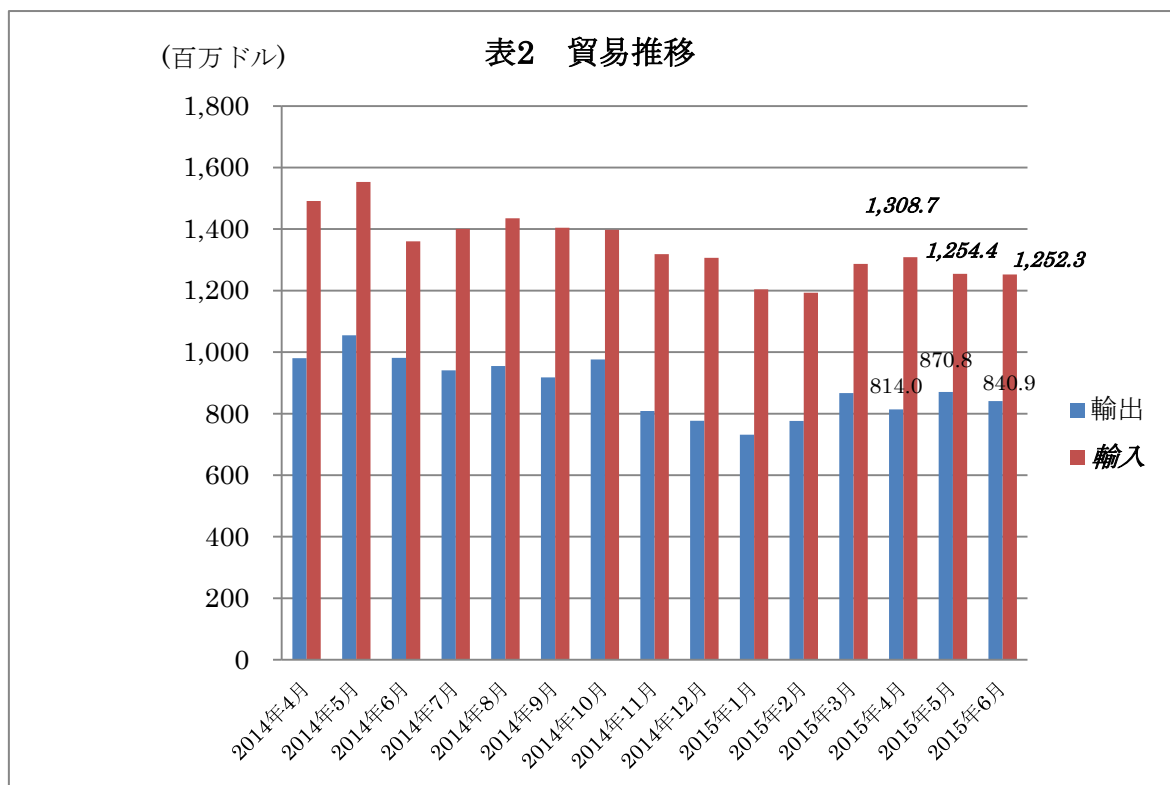
●4月の輸入額(表2)は1,308.7百万ドル(前年比約16.7%減)、同輸出額(表2)は814百万ドル(前年比約17%減)となった。

●5月の輸入額(表2)は1,254.4百万ドル(前年比約17.7%減)となり、同輸出額(表2)は870.8百万ドル(前年比約17.5%減)となった。

●6月の輸入額(表2)は1,252.3百万ドル(前年比約8%減)、同輸出額(表2)は840.9百万ドル(前年比約14.3%減)となった。

●貿易累積額に関しては、輸入額が6月時点(表3)で各7,501.2百万ドル(前年比約15.9%減)、同輸出額(表3)は各4,924.6百万ドル(前年比約16.2%減)を記録した。これにより、6月までの貿易赤字額は2,576.6百万ドル(前年比約15.5%減)となった。

●第一四半期から引き続き、輸出・輸入ともに昨年同期から－15%を下回る成長率を記録した(表4)。特に輸出額の減少については、その要因として長年主要輸出品だった集積回路を生産するインテル社工場が撤退したことや、異常気象による主要輸出作物への影響などが挙げられている。



(百万ドル)

表3 累積貿易額 前年比較

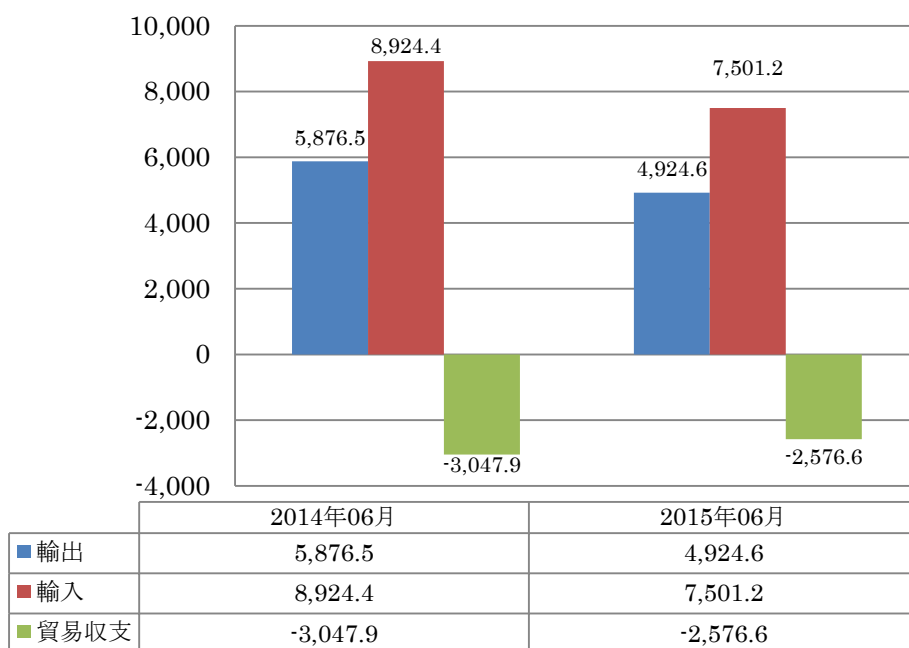
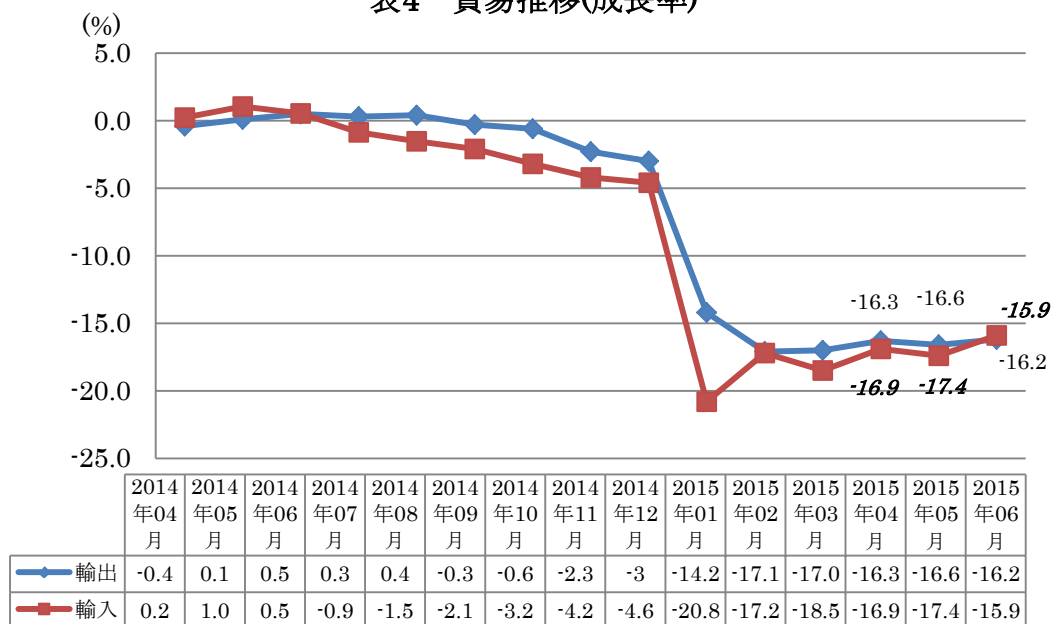


表4 貿易推移(成長率)

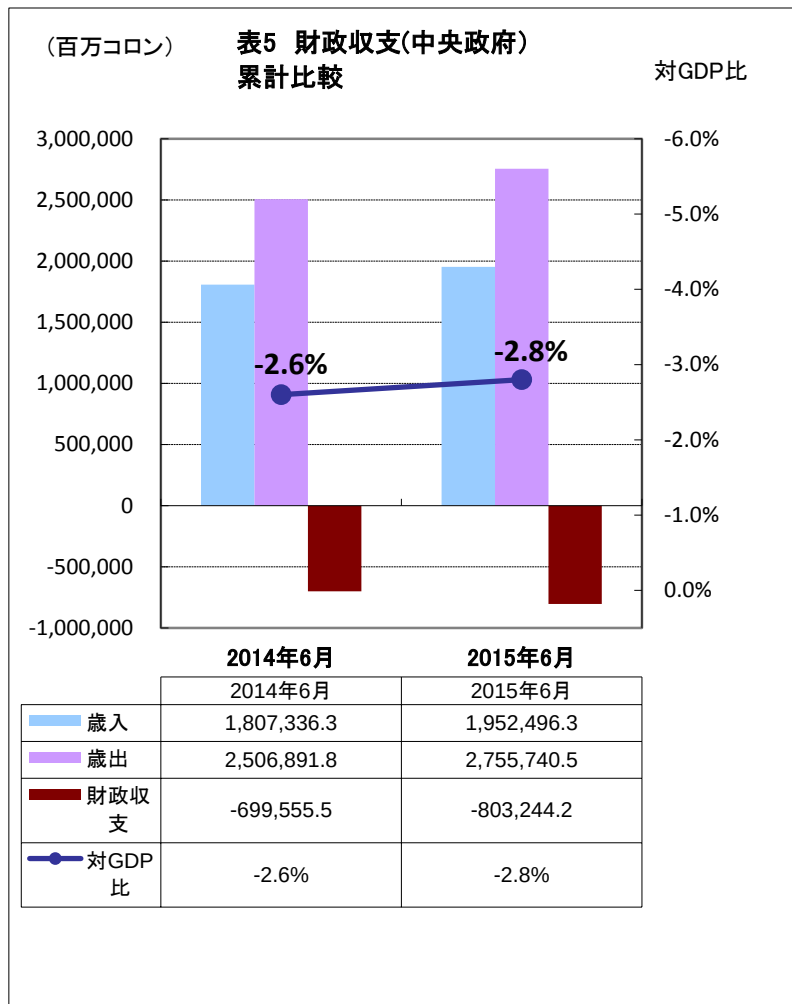


3 財政収支

●6月までの財政収支(表5)は、歳入が約1兆9,524億コロン(前年比約8%増)、歳出が約2兆7,557億コロン(前年比約10%増)となり、財政赤字額は約8,032億コロン(前年比約14.8%増)となった。財政赤字の対GDP比は前年から0.2ポイント増の2.8%となっている。

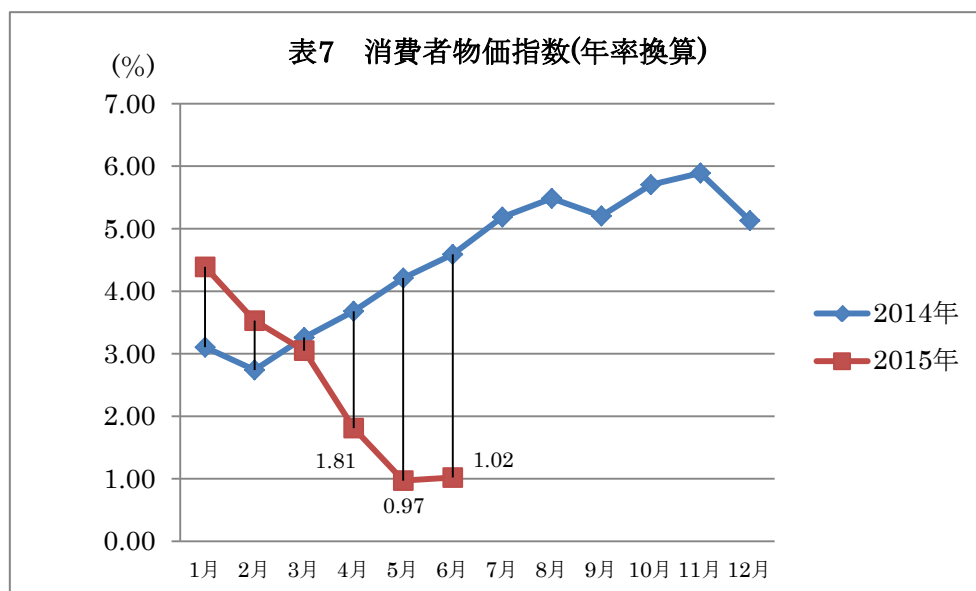
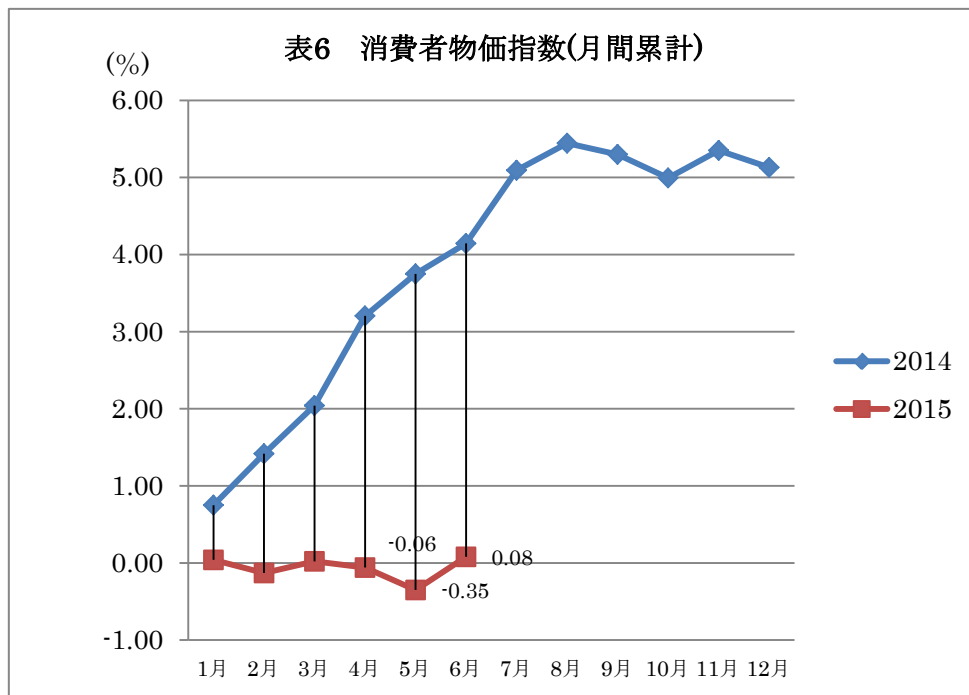
●財政状況のさらなる悪化が危ぶまれるなか、上半期までの財政赤字の対GDP比は昨年同期からの極端な悪化を見せていないが、下半期に予測される公共投資、移転支出、現在対GDP比約45%に到達している累積財政赤字の利子払い、資金調達のための国債金利の上昇等の要素により、年末時点での数値は昨年を上回る6%台となる可能性がある(2015年の政府目標は5.7%)。

●ソリス大統領率いる市民行動党(PAC)政権は引き続き税制改革の必要性を訴えているが、同党は5月に実施された国会役員選挙において議長含む要職を獲得できなかったことで国会運営での主導権を失ったため、その実現がさらに困難となる可能性がある。



4 物価上昇率

●4月から6月にかけての物価上昇率はマイナス0ポイント台(−0.35%〜−0.06%)を推移し(表6)は、1%台で推移した年率換算数値(表7)と合わせて第一四半期から大きな変化は見られず、昨年顕著だったインフレ傾向がほぼ収束したことがうかがえる。

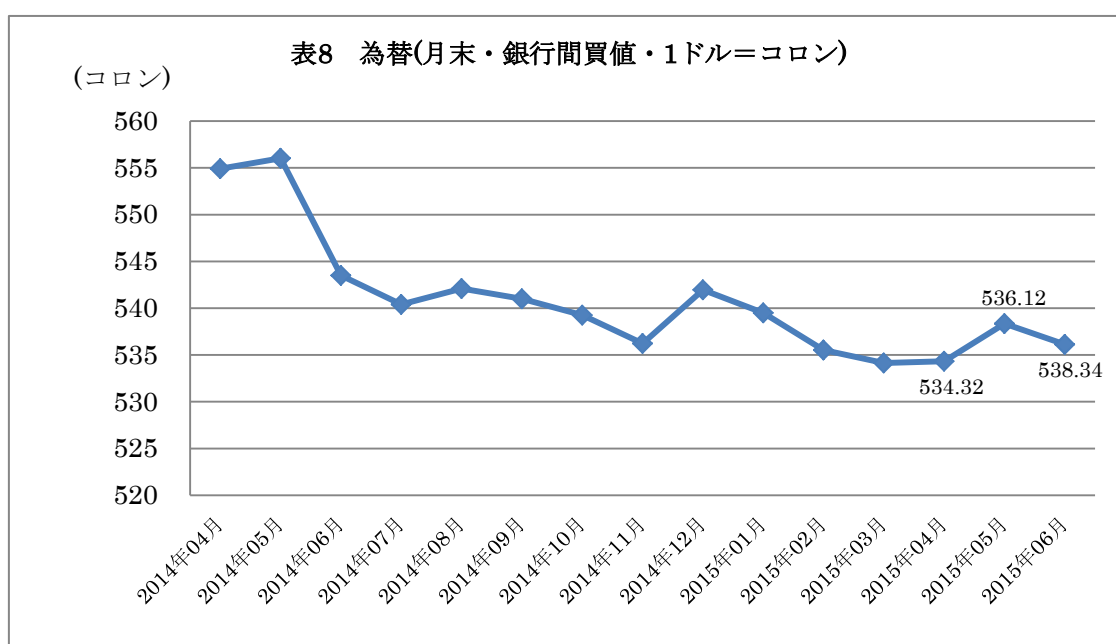


5 為替・金利

(1) 為替レート

●第2四半期の対米ドル為替レート月末値(表8)は、第1四半期から引き続き1米ドル530コロン台半ばから後半の間を推移した。

●年始以降の為替相場の安定(1米ドル=535-540コロンを推移)の主な要因として、石油などの主要工業原料の国際価格の低下により、輸入品購入のための外貨需要が抑制されていることが挙げられている。



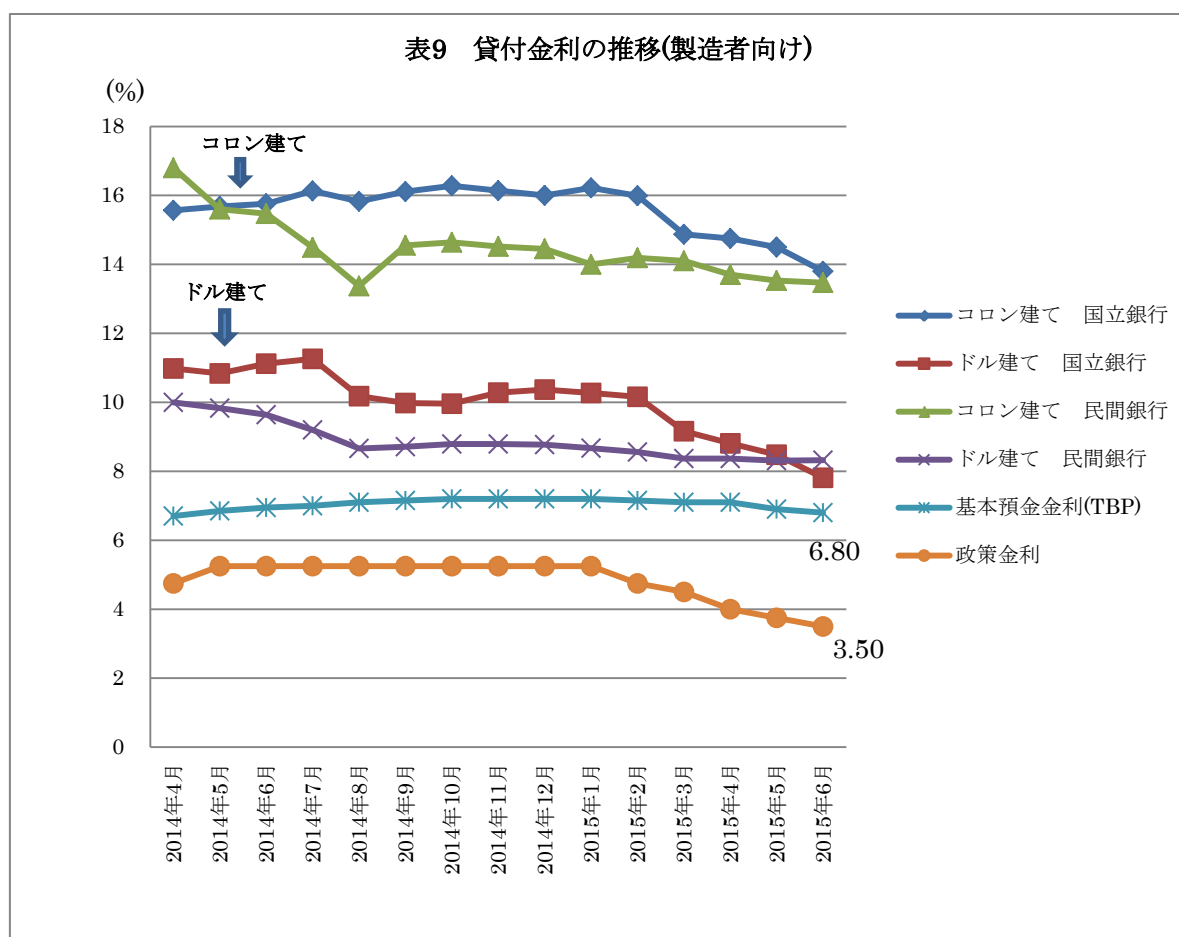
(2)金利

●基本預金金利は3月に引き続き4月時点では7.10%だったが、5月に0.2ポイント、6月には0.15ポイント引き下げられ、6月末時点で6.80%となった。

●政策金利に関しては、3月末時点から6月末時点にかけて1ポイント引き下げられ、3.50%となった。

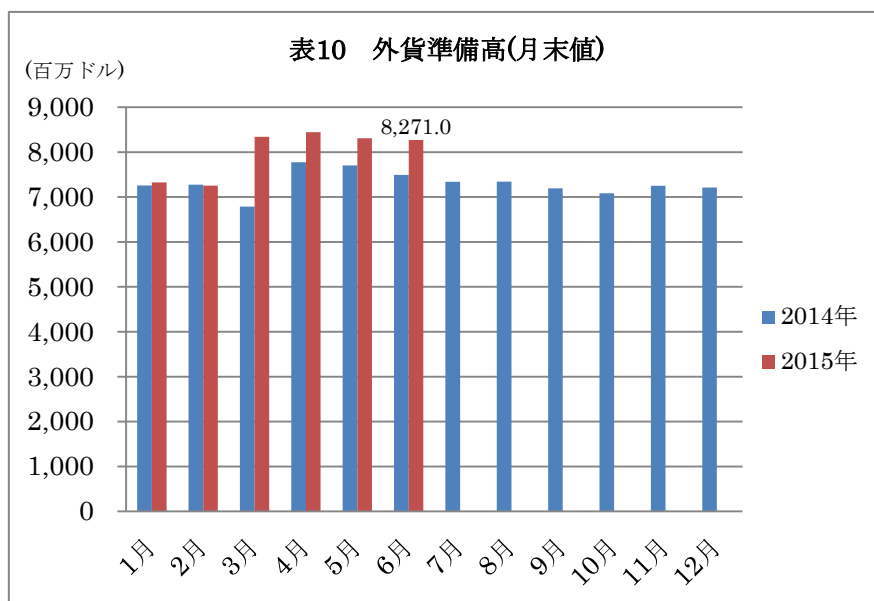
●それに伴い、国立銀行による両通貨の貸付金利も引き下げられ、コロンについては同期間に13.80%(民間13.47%)、ドルに関しては7.81%(民間8.32%)となり、両通貨において国立・民間銀行間の金利差が縮小している。

●コロン、米ドル双方のローン金利の引き下げが続いていることが、一部国内経済活動に寄与しており、その一例として、本年の上半期の新車売り上げ台数が昨年値を4,000台近く上回る約2万2000台を記録した。



6 外貨準備高

●6月末時点の米ドル準備高(表10)は各8,271百万ドルとなった。石油を初めとする工業原料の国際価格の低下傾向により、それらの調達に必要な外貨の使用額が抑制されていることにより、準備高の減少が鈍化している(昨年4―6月の外貨準備高が減少率約3.7%だったのに対し、本年は約2.0%にとどまっている。)



7 主な出来事(出典：当地報道など)

国内経済

●2014 年、コスタリカへの海外直接投資額は前年から 21%減少(4/6)

2014 年のコスタリカへの海外直接投資(FDI)額は、2,106 百万ドルを記録した。これにより、2014 年当初の目標額 1,900 百万ドル(2015 年の目標額は 2,500 百万ドル)は達成した。しかし、前年の 2013 年と比較し、21%減となり、2009 年以降の 6 年間で初めての前年割れとなった。投資振興機構(CINDE)は、投資額の増加を図るための競争力強化(コスト、法整備、人材養成)などの必要性を訴えているが、外国からの投資は出資国の経済に左右されるため、現在の米国、EU、日本、中国の経済状況を考慮した場合、本年中の顕著な改善は困難との見解を示している。

●国債の利子支払い額の増加が国庫を圧迫(4/22)

第一四半期の、政府による国債の利子の支払い額は 1924.6 億コロンに到達し、これは前年同期から 19.5%増となった。また、同支出は全歳出の約 14%を占めている。第一四半期の歳出は前年比 12%増の 1 兆 4400 億コロンとなった一方で、同期間の歳入は前年比 13.1%増の 1 兆億コロンとなっており、政府による財政健全化が順調に進んでいないことが明らかとなった。今後、資金調達のために国債の金利を上げる必要性が生じることが予見されるが、それに伴い政府の財政管理能力への信用度がさらに低下することが懸念されている。

●リモンへの投資により建設作業が開始(4/29)

リモン県に位置するモイン港におけるオランダ資本の APMTerminals 社のメガポート建設開始により、同県内での新たなフリーゾーン開設が見込まれている。

構想では、新フリーゾーンはカリブ産業地区(Parque Industrial Caribe)という名称で、Rio Blanco 地区における 32.6 ヘクタールの規模のフリーゾーンの設置される方向で検討されており、2016 年の第 1 四半期に着工する予定となっている。工期は 3-4 年が計画されている。同フリーゾーンの設置により、3,100 名の直接雇用及び 4,500 名の間接雇用の創出が期待されている。

●JP モルガン銀行、コスタリカ国債購入を控えるよう顧客に示唆(5/16)

5 月 14 日、資産規模で米国最大手の JP モルガン銀行は新興市場債券指標(EMBIGD)を発表し、コスタリカ債の評価の marketweight から underweight への引き下げを発表した。同銀行による marketweight 評価は、近い将来の国債価値に大きな変化が生じない見通しであることを意味し、underweight は国債価値の下落が予測されているときに用いられる。

同銀行は、コスタリカにおいて財政健全化が喫緊の課題であることが広く認識されているにもかかわらず、国会の機能不全や政権の財政健全化政策への反発が大きいために短期

的な改善が見込めないことや、2015 年の予測経済成長率 3.4%が IMF の試算による 4.3%を下回っていることを今回の判断材料として挙げた。

対外経済

●コスタリカの OECD 加盟に向けた審査開始(4/9)

4 月 9 日、パリで開催された OECD 理事会において、コスタリカの加盟に向けた審査の開始が全会一致で承認された。これに伴い、コスタリカは国際社会における公共政策の面でリーダーシップを発揮している 34 の現加盟国と、より緊密な連携を図ることが可能になる。今後、コスタリカが OECD 加盟を実現させるためには、OECD との間で加盟議定書を締結する必要があり、コスタリカ側では国会の批准が必要となる。

●米国へのエタノール輸出割当問題への対応(4/13)

コスタリカは、2013 年から米国との間で係争中のコスタリカ産の無水エタノールへの関税に関する案件を、解決に至るまでの時間とコストを考慮し、現段階では仲裁機関に持ち込まない方針をとることにした。同エタノールは、コスタリカが第三国から輸入した原材料を国内で加工し、米国企業に輸出していた。2013 年 2 月までの 25 年間、同製品は非関税で米国へ輸出され、年間 31 百万ガロンの輸出割当が適用されていたが、同年に米国商務省が米国・中米内自由貿易協定(CAFTA)の解釈を変更し、一方的な形でコスタリカから輸出される無水エタノールに 2.5%の関税を課すことを決定した。

2014 年 4 月、コスタリカ政府は CAFTA で規定されている紛争解決メカニズムに基づく二国間協議により事態の打開を図ったが、期限として定められている 60 日間に両国間で意見の一致を見られなかった。そのため、コスタリカ政府は同年 6 月に、CAFTA の自由貿易委員会に問題提起し、今日まで期限延長を繰り返し実施してきたものの、解決には至っていない。

●アルゼンチン及びウルグアイからのコメの輸入関税率を維持(4/14)

2 月 19 日、国産米を保護するための一時的措置として、それまで 35%だった輸入米関税が約 60%(59.88%)に引き上げられた（コスタリカとの間で自由貿易協定が発効している S I C A 諸国及び米国からの輸入米は対象とならず、引き続き税率 35%が適用されている。）。これを受け、コスタリカの 2013－2014 年の輸入精米において 28%のシェアを誇るアルゼンチンと、同じく 25%を占めるウルグアイは異議を申し立てた。両国は WTO の枠組みの中で同関税引き上げに対する補償措置を求めてきたが、4 月 10 日のコスタリカの官報において発表された政令によって一連の動きが収束した。

それによると、今後ウルグアイには 6,960 トン、同様にアルゼンチンには 3,786 トンの精米輸入割当が適用され、割当分に関しては引き上げ前の関税率 35%が適用されることになった。さらに、ウルグアイに対しては 3,062 トンの非脱穀米と 1,100 トンの半加熱済み

米(Arroz Precocido という分類で、一度加熱されていることから米料理を作る際の調理時間が短くなる。)、アルゼンチンに対しては 2,235 トンの半加熱済み米が非関税で輸入されることになった。

●中米(SIECA 諸国)・韓国自由貿易協定締結に向けた交渉開始へ(6/18)

6 月 18 日、ユン・サンジク 韓国産業通商資源部長官による米国訪問に合わせて、ヒューストンで同長官と中米諸国の経済関係閣僚との会合が開催された。同会合に参加した中米諸国の経済閣僚からは、韓国との通商協定締結に向けた交渉が極めて重要な機会であるとの統一見解が示された。協定の内容に関しては通商分野だけでなく、協力関係の強化も大きく加味されたものになるよう検討していく意向が示された。参加各国の代表者は、今後の交渉進捗のペースや、第一回交渉の時期などについて議論した。

●9 カ国からのアボカド輸入制限措置の実施(5-6 月)

5 月 5 日、コスタリカ農牧省管轄の国家植物衛生サービス局(SFE)は、アボガドの果実の形成に影響を与えるアボガド・サンプロッチ・ウイロイド(ASBV)の世界的な蔓延を受け、メキシコ、グアテマラ、米国など計 9 ヶ国からの同作物の輸入を一時的に制限することを決定した。コスタリカによる一時的輸入制限措置を受け、同国へのアボガド最大輸出国であるメキシコは、同措置はコスタリカによる一方的なもので世界貿易機関(WTO)の協定に抵触する違法行為だと主張している。

6 月 25 日、トゥルヒージョ・メキシコ植物衛生局長は、同国の通商関係者、植物の病気の専門家と共にコスタリカを訪問し、コスタリカ国家植物衛生サービス局(SFE)との会合に臨み、メキシコ産アボカドの輸入禁止措置に関する説明をコスタリカ側に求めた。

同会合において、コスタリカ側は、ASBV に対する懸念という、輸入禁止措置開始以来の一貫した主張を展開した。メキシコ側は、コスタリカが今回の輸入禁止措置をとるにあたり、WTO 協定の定める 60 日前までの対象国への事前通知を怠ったとしつつ、コスタリカが今回の輸入禁止措置に至った技術的な理由を未だ開示していない点を強調し、説明責任を果たしていないのはコスタリカ側であると指摘した。メキシコは本件に関し、事態の推移によっては本件を WTO へ提訴する可能性についても言及している。

(了)